

令和 5 年 度

龍ヶ崎地方衛生組合決算審査意見書

一 般 会 計

基 金 運 用 状 況

龍ヶ崎地方衛生組合監査委員

凡 例

- 1 比率（％）は、小数点以下第２位を四捨五入した。
- 2 構成比（％）は、小数点以下第２位を四捨五入した。表内で構成比を 100％とするため、調整を図っている場合がある。
- 3 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
 - 「0」、「0.0」・・・・・・・・・・該当数値（0 を含む。）はあるが、単位未満のもの
 - 「△」・・・・・・・・・・減少または負数
 - 「－」・・・・・・・・・・該当数字がないもの

令和 5 年度 龍ヶ崎地方衛生組合決算審査意見書

第 1 審査の対象

令和 5 年度龍ヶ崎地方衛生組合一般会計歳入歳出決算書
令和 5 年度龍ヶ崎地方衛生組合一般会計歳入歳出決算事項別明細書
令和 5 年度実質収支に関する調書
令和 5 年度財産に関する調書
令和 5 年度基金運用状況書

第 2 審査の方法

審査に付された令和 5 年度龍ヶ崎地方衛生組合一般会計歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書並びに基金運用状況書について、関係諸帳簿等を精査照合するとともに、関係職員の説明を聴取し、計数の正確性、予算執行状況及び財政運営状況の適否等について審査を行った。

第 3 審査日

令和 6 年 8 月 23 日（金）

第 4 審査の結果

一般会計の歳入歳出決算書、同事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、その計数は関係諸帳簿と照合した結果正確であることが認められた。

基金の運用状況書についても計数は正確であり、基金の目的に従って適正に運用されたものと認められた。

また、予算の執行状況についても、概ね適正であることが認められた。

審査の結果は次のとおりである。

1 総括

総括意見

本年度の決算内容及び予算の執行状況を見ると決算額は歳入 4 億 741 万 3,561 円、歳出 3 億 6,933 万 8,395 円で予算現額に対する割合は歳入 100.0%、歳出 90.7%となっている。前年度と比べると歳入で 882 万 8,676 円の増加、歳出で 69 万 7,402 円減少している。また、歳入歳出差引額は 3,807 万 5,166 円、翌年度へ繰越すべき財源が 1,511 万 2,000 円であることから実質収支は 2,296 万 3,166 円となっている。

(まとめ)

歳入については、使用料及び手数料の一般廃棄物処理手数料において、昨年度に比べてし尿の搬入量が 3 %減少しており、今後も人口減少等により使用料及び手数料の収入は減少していくものと思われる。今後もさらに厳しい歳入環境が続くと予想されるが、歳入の大部分を占める分担金及び負担金は、構成市町村の負担であることを踏まえ、少しでも収入を増やすための方策を探究されたい。

歳出においては、国の補助により電気料金が抑えられ光熱水費において不用額が生じている。しかしながら国の補助は一時的なものであり、今後も燃料費等の価格は上昇していくことが予想されるため、なお一層の省エネ対策などに取り組むよう要望する。また、予算執行状況の確認を徹底し、多くの不用額が生じないよう効率的かつ適切な予算執行に努められたい。

今回、施設の設備機器の修繕 2 件が半導体の不足による部品の供給の遅れに伴い、翌年度に繰越となっている。処理能力の低下によりし尿処理が滞ることのないよう長寿命化総合計画（施設保全計画）に基づき計画的な修繕を実施することに加えて、社会経済情勢を考慮した定期的な計画の見直しを行うよう要望する。

引き続き、安全かつ安定した施設運営に努めるとともに、構成市町村との連絡・連携を密にして協力し合い、圏域住民の衛生環境の保全のため努力されたい。

2 歳入歳出決算

(1) 概要

決算額は歳入 4 億 741 万 3,561 円、歳出 3 億 6,933 万 8,395 円であり、予算現額歳入歳出それぞれ 4 億 727 万 5,000 円に対する割合は歳入 100.0%、歳出 90.7%、歳入歳出差引額は 3,807 万 5,166 円となっている。

翌年度へ繰り越すべき財源が 1,511 万 2 千円であることから本年度実質収支は 2,296 万 3,166 円となっている。

この実質収支 2,296 万 3,166 円が翌年度への剰余繰越しとなっている。

また、本年度実質収支から前年度実質収支 2,011 万 6,088 円を差し引いた単年度収支は、284 万 7,078 円の増加となっている。

一般会計決算収支の状況は、第 1 表のとおりである。

第 1 表 一般会計決算収支の状況

(単位：円・%)

区分	前年度 A	本年度 B	増減額 B-A	増減率 $B/A \times 100 - 100$
歳 入 決 算 額	398,584,885	407,413,561	8,828,676	2.2
歳 出 決 算 額	370,035,797	369,338,395	△697,402	△0.2
歳 入 歳 出 差 引 額	28,549,088	38,075,166	9,526,078	33.4
翌年度へ繰越すべき財源	8,433,000	15,112,000	6,679,000	79.2
実 質 収 支 額	20,116,088	22,963,166	2,847,078	14.2

(2) 歳入

ア 概要

歳入決算額は4億741万3,561円であり、前年度3億9,858万4,885円に比べ882万8,676円(2.2%)の増加となっている。

歳入決算額の予算現額4億727万5,000円に対する収入率は、100.0%となっている。

イ 款別決算状況

歳入決算額の款別対前年度増減額は、分担金及び負担金で53万2,000円の増加、使用料及び手数料で72万5,002円減少している。

また、財産収入で534円、繰入金で1,211万2,000円の減、繰越金で528万4,453円、諸収入で1,584万9,759円増加している。

歳入決算額の款別構成比率は、分担金及び負担金が83.3%と最も大きく、繰越金7.0%、使用料及び手数料5.7%、諸収入4.0%となっている。

歳入款別決算状況は第2表のとおりである。

第2表 款別歳入決算状況

(単位：円・%)

款	前年度決算額 A	本年度					
		予算現額 B	決算額 C	収入率 C/B×100	構成比	増減額 C-A	増減率 C/A×100-100
1 分担金及び負担金	338,921,000	339,453,000	339,453,000	100.0	83.3	532,000	0.2
2 使用料及び手数料	23,947,325	23,106,000	23,222,323	100.5	5.7	△725,002	△3.0
3 財産収入	40,544	41,000	40,010	97.6	0.0	△534	△1.3
4 繰入金	12,112,000	0	0	0	0.0	△12,112,000	皆減
5 繰越金	23,264,635	28,549,000	28,549,088	100.0	7.0	5,284,453	22.7
6 諸収入	299,381	16,126,000	16,149,140	101.1	4.0	15,849,759	5,294.2
歳入合計	398,584,885	407,275,000	407,413,561	100.0	100.0	8,828,676	2.2

款 1 分担金及び負担金

決算額は 3 億 3,945 万 3,000 円で、前年度 3 億 3,892 万 1,000 円に比べ 53 万 2 千円 (0.2%) の増加である。

歳入全体の 83.3% を占めており、歳入の根幹をなしている。

款 2 使用料及び手数料

決算額は 2,322 万 2,323 円で、前年度 2,394 万 7,325 円に比べ 72 万 5,002 円 (3.0%) 減少しており歳入全体の 5.7% を占めている。

減少の主な要因は、手数料の一般廃棄物処理手数料で、決算額 2,311 万 6,470 円は、前年度 2,383 万 9,420 円と比べ 72 万 2,950 円 (3.0%) の減少となっている。

これは、し尿・浄化槽汚泥の搬入量 63,160,190kg が、前年度 65,135,480 kg と比べ 1,975,290 kg (3.0%) 減少したことによるものである。

今後も構成市町村の人口減少及び下水道の普及により減少することが予想される。

款 3 財産収入

決算額は 4 万 10 円で、前年度 4 万 544 円に比べ 534 円 (1.3%) の減少である。

款 4 繰入金

決算額は 0 円で、前年度より皆減している。

款 5 繰越金

決算額は 2,854 万 9,088 円で、前年度 2,326 万 4,635 円に比べ 528 万 4,453 円 (22.7%) の増加である。

款 6 諸収入

決算額は 1,614 万 9,140 円で、前年度 29 万 9,381 円に比べ 1,584 万 9,759 円 (5,294.2%) の増加である。

増加の主な要因は、令和 4 年度に罹災した落雷被害に対する公有建物災害共済金が支払われたことによるものである。

(総括)

歳入全体では、前年度に対し 882 万 8,676 円増加しているが、大きな要因である諸収入の増加は、公有建物災害共済金による一時的な増加であり、今後も、圏域人口の減少や下水道の普及により廃棄物処理手数料の収入が減少していくことが予想される。

厳しい歳入環境が続くことが予想されるが、少しでも収入を増やす方策を探究されたい。

(3) 歳出

ア 概要

歳出決算額は3億6,933万8,395円であり、前年度3億7,003万5,797円に比べ69万7,402円(0.2%)の減少となっている。

歳出決算額の予算現額4億727万5,000円に対する執行率は、90.7%となっている。

イ 款別決算状況

歳出決算額の款別対前年度増減額は、議会費で20万5,336円の減、総務費で、6,929万8,148円の減、衛生費は6,880万6,082円増加している。

決算額の款別構成比率は衛生費が83.5%と最も大きく、総務費15.7%、議会費0.8%となっている。

歳出款別決算状況は第3表のとおりである。

第3表 款別歳出決算状況

(単位：円・%)

款	前年度決算額 A	本年度						
		予算現額 B	決算額 C	不用額 B-C	執行率 C/B×100	構成比	増減額 C-A	増減率 C/A×100-100
1 議会費	3,278,041	3,310,000	3,072,705	237,295	92.8	0.8	△205,336	△6.3
2 総務費	127,376,726	58,779,000	58,078,578	700,422	98.8	15.7	△69,298,148	△54.4
3 衛生費	239,381,030	335,186,000	308,187,112	11,886,888	91.9	83.5	68,806,082	28.7
4 予備費	0	10,000,000	0	10,000,000	-	0.0	0	0.0
歳出合計	370,035,797	407,275,000	369,338,395	22,824,605	90.7	100.0	△697,402	△0.2

※ 衛生費の不用額については、翌年度繰越額15,112,000円を除いた額です。

款 1 議会費

決算額は 307 万 2,705 円で、予算現額 331 万円に対する執行率は 92.8%であり、前年度 327 万 8,041 円に比べ 20 万 5,336 円（6.3%）の減少となっている。

なお、不用額は 23 万 7,295 円である。

款 2 総務費

決算額は 5,807 万 8,578 円で、予算現額 5,877 万 9,000 円に対する執行率は 98.8%であり、前年度 1 億 2,737 万 6,726 円に比べ 6,929 万 8,148 円（54.4%）の減少となっている。これは、施設関係職員の人件費を衛生費に計上したことによるものである。

なお、不用額は 70 万 422 円であり、主な要因は、審査会の開催が少なかったことによる報酬の不用額と、基礎年金拠出金に係る公的負担率の改定に伴う共済費の不用額である。

款 3 衛生費

決算額は 3 億 818 万 7,112 円で、予算現額 3 億 3,518 万 6,000 円に対する執行率は 91.9%であり、前年度 2 億 3,938 万 1,030 円に比べ 6,880 万 6,082 円（28.7%）の増加となっている。これは、前年度は総務費に計上していた施設関係職員の人件費を新たに計上したことによるものである。

なお、不用額は 1,188 万 6,888 円であり、主な要因は、国の補助により電気料金が抑えられたことによる光熱水費の不用額である。

また、処理場費の需用費修繕料において、部品の調達の遅れにより修繕 2 件、計 1,511 万 2,000 円が翌年度への繰越となっている。

款 4 予備費

決算額 0 円で、今年度の予備費の支出はなかった。なお、不用額は 1,000 万円である。

（総括）

歳出全体では、前年度に対し 69 万 7,402 円減少しているが、大きな要因である光熱水費の減少は、国の補助により電気料金が抑えられたことによるものであり、国の補助は一時的なものであることを踏まえると、今後も燃料等の価格上昇により光熱水費は増加していく可能性がある。

また、設備機器の修繕においては、人件費や原材料の価格の上昇に加え、半導体の不足による部品の供給の遅れに伴い 2 件の事業が翌年度に繰越となっている。

し尿処理が滞ることのないよう長寿命化総合計画（施設保全計画）に基づく計画的な施設の整備を実施するとともに、省エネ対策などによりコスト削減を図りつつ不用額の生じない効率的かつ適切な予算の執行に努められたい。

3 実質収支に関する調書

実質収支に関する調書は適法に作成されており、計数は正確であることを認めた。

令和3年度からの実質収支の状況は第4表のとおりである。

第4表 実質収支の状況

(単位:円)

区 分		令和5年度	令和4年度	令和3年度
1 歳入総額		407,413,561	398,584,885	390,401,756
2 歳出総額		369,338,395	370,035,797	367,137,121
3 歳入歳出差引額		38,075,166	28,549,088	23,264,635
4 翌年度へ繰越すべき財源	(1) 継続費通次繰越額	0	0	0
	(2) 繰越明許費繰越額	15,112,000	8,433,000	0
	(3) 事故繰越し繰越額	0	0	0
	計	15,112,000	8,433,000	0
5 実質収支額		22,963,166	20,116,088	23,264,635
6 実質収支額のうち地方自治法第233条の2の規定による基金繰入額		0	0	0

4 財産に関する調書

財産に関する調書は適法に作成されており、調書の表示する事項及び計数は正確であることを認めた。

(1) 公有財産

ア 土地

(単位：㎡・%)

区 分	前年度末現在高 A	本年度中増減高	本年度末現在高 B	増減率 $B/A \times 100 - 100$
土 地	32,812.11	0.00	32,812.11	0.0

イ 建物

(単位：㎡・%)

区 分	前年度末現在高 A	本年度中増減高	本年度末現在高 B	増減率 $B/A \times 100 - 100$
木 造	0.00	0.00	0.00	0.0
非 木 造	8,192.37	0.00	8,192.37	0.0
合 計	8,192.37	0.00	8,192.37	0.0

(2) 物品

重要な物品の本年度末現在高は、5品目6点である。

(単位：台)

区 分	前年度末現在高	本年度中増減高	本年度末現在高
乗 用 車	1	0	1
軽 自 動 車	1	0	1
ト ラ ッ ク	1	0	1
フォークリフト	2	0	2
草 刈 機 械	1	0	1

5 基金運用状況

基金の運用状況については、適正に運用されていることを認めた。

基金の本年度末現在高は、一般基金合計 2 億 824 万 3,181 円で前年度に比べ 4 万 10 円 (0.02%) 増加している。

各基金における本年度末現在高は、財政調整基金が 9,783 万 6,750 円、施設整備基金が 1 億 1,040 万 6,431 円で、前年度に比べ財政調整基金が 1 万 9,617 円 (0.02%)、施設整備基金が 2 万 393 円 (0.02%) それぞれ増加している。

財政調整基金においては、適正規模を調査研究し、引き続き、厳正な運用管理を行うよう要望する。

また、施設整備基金においては、令和 5 年度中に見直しを行った「今後の基金運用に関する方針」に基づいて、将来の財政出動に備えた適切な運用管理を行うよう要望する。

基金の状況については第 5 表のとおりである。

第 5 表 基金の状況

(単位：円・%)

区 分	前年度末現在高 A	増 減 額	本年度末現在高 B	増減率 $B/A \times 100 - 100$
財政調整基金	97,817,133	19,617	97,836,750	0.02
施設整備基金	110,386,038	20,393	110,406,431	0.02
一般基金合計	208,203,171	40,010	208,243,181	0.02